



荒瀧 穂積議員

Q 災害大国日本。 今後想定される複合災害にどう対応するか

A 〈町長〉
再び人的災害を伴う災害を防ぐことが私に課せられた使命と
考えている。

〔Q1〕
平成30年7月6日午後8時10分頃大原ハイツにて土石流が発生し、12名の町民が亡くなった。私どもは、まず反省をし、謝罪をし、ここから復興がはじまるところがどうか。

〔A1〕
議員提案による「熊野町防災の日」を定める条例や、本定例会に提案した「熊野町防災・減災まちづくり条例案」に掲げる「自助」「共助」「公助」の理念のもと、人的被害が伴う災害が再びおきない強靱なまちづくりを推進することが、私に課せられた使命と考える。

〔Q2〕
広島市長や県知事の謝罪もないが、なにか行政的にルールでもあるのか。



▶大原ハイツ
土石流の現場

〔A2〕
そのようなルールはないと思っている。

〔Q3〕
前日（7月5日）広島気象台は、7月5日～8日の大雨気象情報を発表している。本町避難指示は、発災の30分前。当時、町民の避難行動に混乱はなかったか。

〔A3〕
避難情報は段階的に出している。避難勧告の段階で避難していたもの。

その他の町行政

Q 〈中島 数宜 議員〉 国勢調査に向けての準備状況は

A 〈町長〉
確実に調査が実施できるよう調査員約100名で調査を進めていく。

〔Q1〕
前回、平成27年の実施状況と課題は。

〔A1〕
全体で12調査区、指導員15名、調査員98名で実施したが、調査員の確保が課題で、広報誌、ホームページでの募集だけでなく行政協力員に調査員候補者の推薦をいただいた。

〔Q2〕
前回のインターネットによる回答率はどうか。

〔A2〕
前回の回答率は41%であった。インターネットによる回答は調査員の負担軽減となるため、周知に努めている。

〔Q3〕
インターネット利用による回答を更に高める具体的な施策を考えたか。

ているか。

〔A3〕
回答率50%以上を目指しており、広報誌やホームページでの啓発に加え、訪問時の丁寧な説明により回答につながりやすくなるよう対応している。

〔Q4〕
調査員の報酬金は概ねどれくらいか。

〔A4〕
例えば、50世帯調査で3万4千4百円程度となる。

〔Q5〕
外国籍の住民の調査は勤務先の責任者が対応できるよう熊野町で協議できないか。

〔A5〕
勤務先への協力依頼など、実効性のある対応を行っている。

Q 〈荒瀧 穂積 議員〉 一方的「約束」破りで強行採決。町長の関与は

A 〈町長〉
二元代表制であり関与はしていない。

〔Q1〕
突然、本会議場で多数化した議員が定数減決議を提出。議長の強引な進行のもと強行可決、成立。町長の関与は。

〔A1〕
議会の定数については二元代表制の観点から関与する立場にない。

〔Q2〕
決議の内容においては、少子高齢化や人口減、災害による町財政の悪化を懸念している町財政の現状はどうか。

〔A2〕
厳しい状況にはあるが、重点戦略や基本施策の推進と財政の健全化を両立させたい。



※首長と議会議員を住民が直接選挙で選ぶ制度。町長と議員は独立し互いに侵害できない。

〔Q3〕
議会は定数減により800万円の拠出をしたが町長のほうは底分の削減をしないのか。

〔A3〕
議員定数の削減と町長ほか特別職の給与の額のあり方は、別に行うべき議論と考える。議員の定数減に伴う特別職の給与削減は、考えていない。

永年にわたる功績により受賞！ ～自治功労者等表彰式 並びに 広島県町議会議員研修会～

2月21日にパルテ・ザ・スタイル・オブ・ウェディングにおいて、「令和元年度自治功労者等表彰式並びに広島県町議会議員研修会」が開催されました。

○自治功労者等表彰式

本議会からは、町議会議員として永年にわたり在職し、地方自治の振興と住民福祉の向上に貢献された大瀬戸宏樹議員が、議員在職14年以上として、広島県町議会議長会会長から表彰を受けられました。受賞おめでとうございます。



◀大瀬戸 宏樹 議員

○広島県町議会議員研修会

「地域文化とまちづくり」講師：劇作家・演出家 平田 オリザ 氏
劇作家としての視点で、文化・芸術を軸としたまちづくりの取り組みについて講演を受けました。

若者のUターン・Iターンを阻害する要因は、自分に合う仕事がないという『雇用』や、東京と同じだけの教育水準が確保できるのかという『教育』、興味のあるスポーツ・食文化がないという『文化』であるという内容でした。

地方への若者の移住・定住を阻害する要因をどう解決していくかが、地方創生において重要になるため、熊野町独自の筆文化や芸術の強みを再確認し、施策への反映に努めます。